

# 世界チャンピオン

## 女子44kg級

### 2018年世界ジュニア柔道選手権大会 (2018年10月17~21日/バハマ)

1回戦0分55秒、内股で一本！(青道着が外処選手)



熱戦を終えて表彰台に上がる女子44kg級入賞選手。左から準優勝のウマイマ・ベディウイ選手(チュニジア)、外処茅優選手、第3位のアマンダ・アラエス選手(ブラジル)、ロイ・ベティ選手(ベルギー)。

**「世界大会に行つて1回戦負けなんて恥ずかしい。目標は大きく優勝です」と語ってくれた9月13日の町長表敬訪問から2か月。各国の代表選手相手に1回戦から決勝までの4試合を戦い、反則勝ちを含めたオール一本勝ちで優勝した外処茅優選手(前原・4区)。世界大会を終えて帰国した外処選手にお話を聞きました。**

たんです。1回戦で得意技の一つ「内股」で一本を取れたことも勢いになりました。

——日本人選手と外国人選手の違いは。

外処 組んだ瞬間に体ごと持って行かれるようなパワーです。

——外処選手はどんな対策を。

外処 足技で相手を動かして自分に有利な組み手を徹底したことです。技の勢いやバリエーション、持久力や精神力では負けないと思っていたので、とにかくスピード勝負です。

——初めての世界大会。「困った」とかありましたか。

外処 バハマまで飛行機で十六時間。現地に着いてからほとんど眠れなくて、「これが時差ボケか」として、それが一番大変でした。意外と心配される食事は、ほとんど日本から持ち込んだものなので安心して食べられました。

——十分な睡眠ができない中での活躍。改めて驚きです。外処選手は中学時代から全国大会で活躍されていましたが、世界を制するまでに何かターニングポイントみたいなものってありましたか。

外処 山梨県の富士学苑高等学校に入学する直前の強化練習中に鎖骨を骨折しました。半年近くをリハビリに費やしたのですが、このときのトレーニングですね。それまでしたことのないハードなトレーニングで自分を追い込みました。きつかったです。試合に復帰すると体力が付いたことが実感できて、相手を制することができるようになりました。それと「気持ち強く持つこと」を監督の矢野雄大先生から教わりました。

——その富士学苑高等学校柔道部の矢野監督ですが、外処選手のことを「新入生の中で一番弱かった。ただ度胸があった。技に入る勇気かと思いきりの良さがあって。素直で誠実。彼女を応援してくれる生徒や先生も多い」と。

外処 本当ですか？…照れます。いつもは鬼みたいに厳しい先生ですが、今大会で優勝したことをほめてくれて。もう泣きそうでした(笑)。

——外処選手とお話していると柔道への熱い想いを感じます。

外処 柔道で強さを求めていくと稽古はもろろん、試合に勝てないとかでつらいことがたくさんあります。でも、柔道はそれだけではなくて、相手のことを理解したり、思いやりたりすることを学ぶことができます。それを教えてくださったのは、スポーツ少年団から

富士学苑高等学校までの私の柔道人生の中で指導し続けてくださった先生方です。今後は先生方から学んだことを同じように伝えていきたいな、と思っています。

——指導者の道へ？

外処 大会前から今大会を私の柔道人生の集大成にしようと決めていました。それだけに、これまでやってきたことを出し切れて、優

勝できて本当によかったです。今後は子どもたちに柔道を教えていきたいです。これから夢に向かって頑張っていきます。

——「夢」？

外処 高校を卒業したら看護師を目指して勉強します。勉強しながら、邑楽町柔道スポーツ少年団で子どもたちと一緒に柔道をするのが、今の私の夢です。

世界のトップを獲れて  
やり切ったという  
気持ち強い



1回戦からオール一本勝ち  
邑楽の柔っ子がやった！  
**外処茅優**  
Todokoro Chihiro